

子ども大学ちちぶの実践

～秩父農工科学高等学校「秩父元気プロモーション」の生徒との交流～

1 実践のねらい

子ども大学ちちぶに参加する小学生が、講義や体験活動などで少し年上の高校生と関わりながら、コミュニケーション能力を高められるようにする。また、高校生が、子ども大学ちちぶの受付業務や活動の補助などの運営に参画することで、小学生や実行委員と関わり、社会参画するための実践力を身に付けられるようにする。

2 事業計画

県立秩父農工科学高等学校の「秩父元気プロモーション（農業科の生徒によって設立、運営されている会社）」に所属する高校生が、「子ども大学ちちぶ」の企画・運営に参画する。

月日	講義名【会場】
10 / 7(土)	講義1「世界に誇る技術が秩父に～レアアース磁石と発光ダイオード～」【昭和電工株式会社】
10 / 14(土)	講義2「心を整える～座禅・写経体験～」【秩父札所3番常泉寺】
10 / 21(土)	講義3「秩父に金山があったの!?!」【県立自然の博物館】
10 / 28(土)	講義4「秩父の星空ウォッチング!」【秩父ミュージアムパーク】 <台風のため中止>
11 / 18(土)	講義5「秩父音頭を知ろう!唄おう!演奏しよう!」【皆野町総合センター】
11 / 25(土)	講義6「ちちぶはよく効くおまじない!」【横瀬町活性化センター】

3 事業内容

(1) 子ども大学ちちぶに参加した小学生と高校生との交流

ア 講義前

会場までの誘導や受付の運営補助を行う。また、担当グループ内での会話や体験活動などを通して人間関係を円滑にしていく。

イ 講義中

参加する小学生に参考資料を配布したり、グループ活動の補助をしたりする。

ウ 講義後

保護者の迎えが来るまでの時間、小学生と高校生が会話をしたり、帰り際にハイタッチをしたりして、絆を深めていく。

(2) 高校生の運営参画（実行委員との関わり）

会場までの誘導や受付業務、グループ活動の補助をする。

(3) 高校生との打ち合わせ（主体的な参画を促す取組）

仕事の分担を受付1時間前に確認し、それぞれの分担業務を遂行する。



グループによる話し合い



帰り際にハイタッチ!

4 成果と課題

(1) 成果

異年齢交流モデル事業を実施して2年目になる今年度は、秩父農工科学高等学校「秩父元気プロモーション」所属の生徒が、昨年度より多く参加した。

「秩父元気プロモーション」の高校生たちは、街中にある店舗で普段から地域住民と関わっている。その経験を生かして小学生へ適切な働きかけが見られた。また、講師と小学生との間に立ち、質問への受け答えや発表資料の作成の仕方など、小学生から見たよいモデルとしての役割を果たしていた。

(2) 参加者からの声

ア 小学生の声

「初めて会った高校生や仲間と仲良くなれるか心配だったけれど、優しく接してくれたおかげで、グループのみんなとも協力することができてよかった。」

イ 高校生スタッフの声

「最初はどうか接したらよいかと心配な部分がたくさんあったが、自分から小学生に話しかけることを心がけた。特にグループで一緒に活動した小学生たちとは仲良くなって、自分たちなりに役割が果たせたという思いが持てた。」

ウ 保護者の声

「秩父郡市内の会場に出かけて、いろいろな先生から様々なお話を聞いたり、お友達や高校生と交流したりすることはなかなかないので、親子で毎回楽しみにしていた。テーマがみんな興味深い内容で、初めて知ることや初めての体験が毎回あり、大変充実した時間を過ごすことができた。」

エ 実行委員の声

「子ども大学ちちぶの初日には、参加している小学生が緊張しており、講師の問いかけに答えることができない雰囲気があったが、高校生が率先して答える姿を示し、場を和やかにしてくれた。最終日のポスター作りでは、写真のレイアウトや文字の強調の仕方など、どのようにしたら完成させられるかを考えながら支援をしてもらい、大変助かった。」

(3) 課題

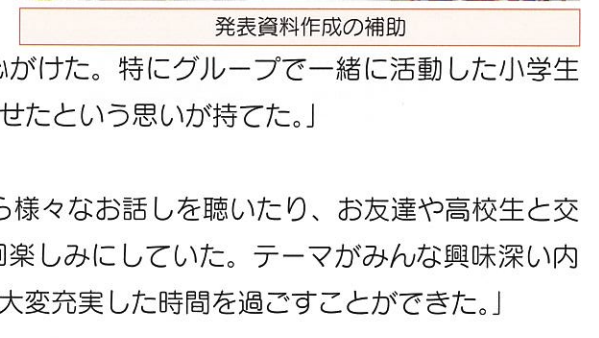
2年目を終え、子ども大学ちちぶと秩父元気プロモーションの連携を円滑に進めることができた。今後は、この良い関係性を持続可能な仕組みにすることが課題である。そのためには、高校生に意欲を持って主体的に運営に関わってもらえる工夫や、参加することで高校生自身が自分たちの成長を実感できる場ができるよう努めたい。また、子ども大学ちちぶに参加した小学生が、将来、秩父元気プロモーションに所属し、子ども大学ちちぶの運営に関わる人材に育まれることを期待して事業を推進したい。



世界一強力な磁石を体感



発表資料作成の補助



小学生と高校生と一緒に活動